



海上保安庁

令和元年12月16日

西之島の噴火について（12月15日観測）

1. 噴火の状況

12月15日午後0時05分から午後1時00分の間、当庁羽田航空基地所属航空機により、西之島の火山活動の観測を実施しました。

詳細は以下のとおりです。

【調査結果】

- ・噴火 火砕丘の中央火口から爆発的噴火が毎秒～数秒に1回の間隔で続いている。また、赤熱した溶岩片（ブロック）が火口の麓まで飛散している。
また、東側火口からの噴火も継続している。
- ・溶岩 新たな火口が北側斜面に開口して北西方向へ溶岩が流下し、海へ流入している。また、東側への溶岩流は現在も流下しており、東へ発達している。

2. 航行警報

調査結果に基づき、気象庁が火山現象に関する海上警報の警戒範囲を半径0.9海里から1.4海里に拡大したことに伴い、航行警報についても警戒範囲を拡大しました。引き続き、付近航行船舶に注意を呼びかけます。

3. 東京工業大学理学院火山流体研究センター 野上健治教授のコメント

「中央火口の火口内まで（つまり標高の高いところまで）新たなマグマが供給され続けており、爆発的な噴火が現在も継続していることから、今回の活動はマグマの供給量が少なくはなく、2017年4月の活動と同程度以上の可能性が高いと考えられる。」

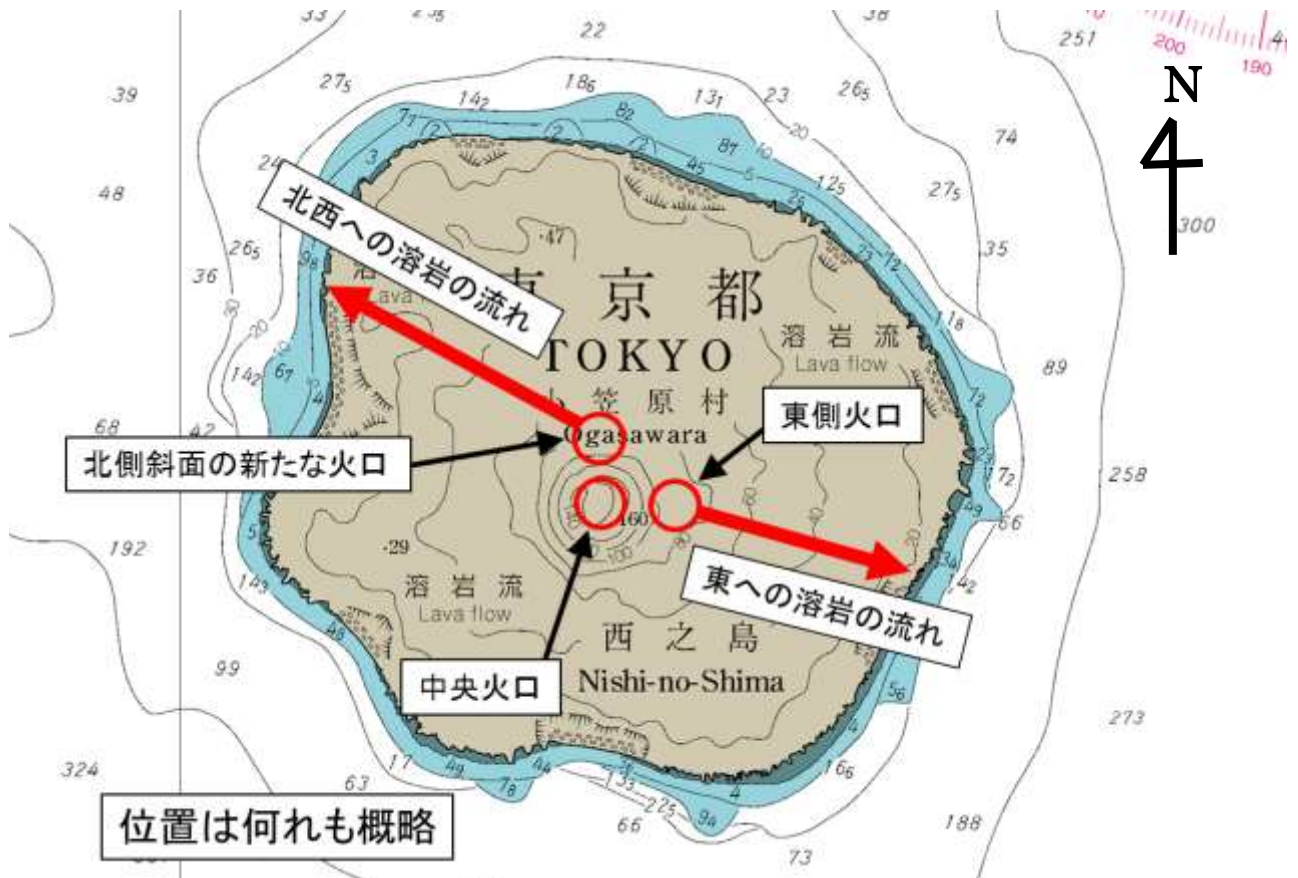


図1 西之島の概略図（海図 W1356 から引用）



図2 西之島の全景（12月15日撮影）



図3 噴石を上空約300mまで噴き上げている。（12月15日撮影）



図4 火砕丘の北側斜面の新たな火口から溶岩が海に流下している。
(12月15日撮影)



図5 海岸線を越えて海に流下する溶岩 (12月15日撮影)

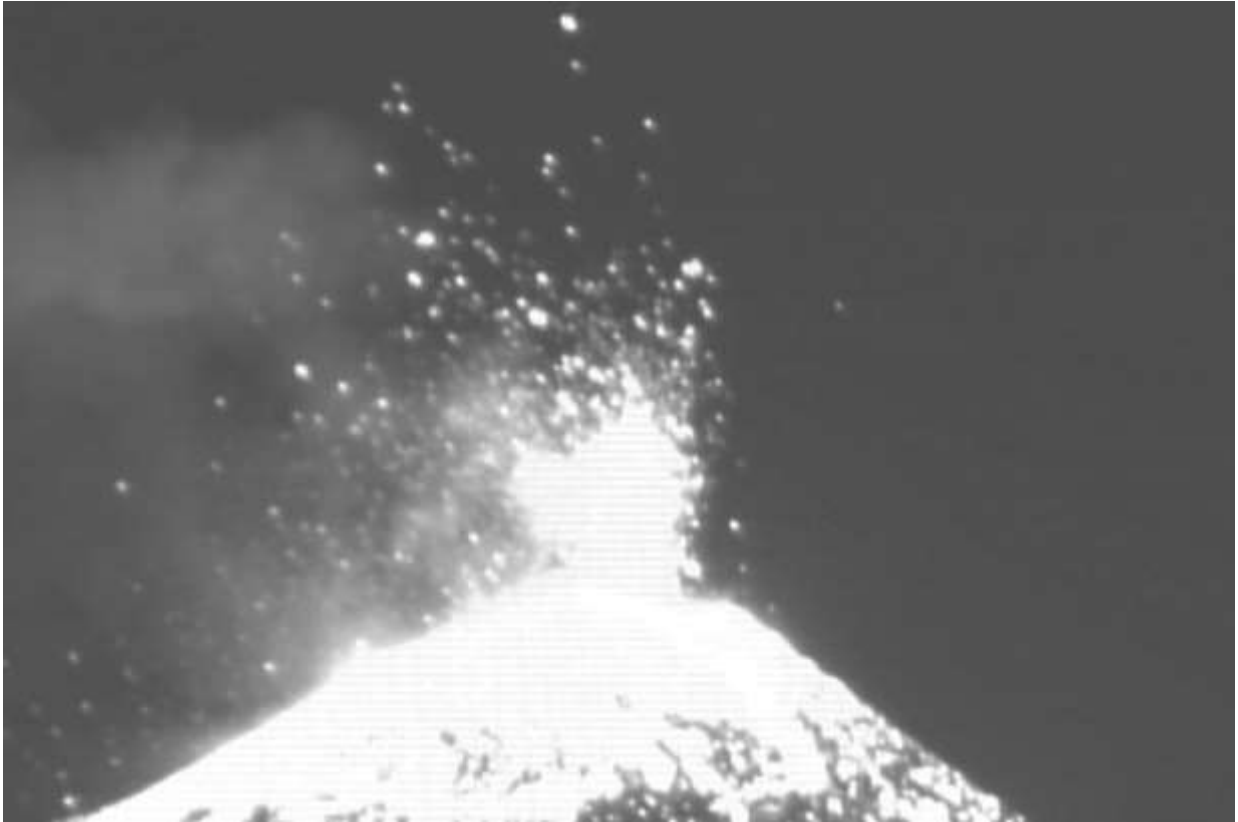


図6 中央火口の噴火（12月15日撮影、熱赤外線画像）



図7 溶岩の流下の状況（12月15日、熱赤外線画像）

